

宇宙分野の国際協力においては、アジア太平洋地域宇宙機関会議 (APRSAF) のような枠組みの中で、日本として教育の分野でもリーダーシップをとって貢献をしていくことが重要である。

## 第 10 回計画部会における主な指摘について

平成 19 年 5 月 31 日  
宇宙開発委員会事務局

国際協力の基本的な考え方としては、いかに必要不可欠な存在になるかということが重要であり、日本が何らかの分野において、絶対に欠くことのできない存在となるための戦略が必要である。

これまでの国際宇宙ステーション (ISS) 計画の総括について、評価の判断基準を科学的な成果に置くのではなく、政策的な観点からの価値判断を前面に出すべきである。

日本実験棟「JEM」について、これまでと全く違った切り口で、新しい企画が必要である。

日本実験棟「JEM」について、ユーザー側の事情が変わってきたことが一つの大きなポイントであり、再度、ユーザーに対するアプローチを考え、アジア等を含めた国際的な視野で新たなユーザーを開拓していくことが重要である。

衛星からの取得データを日本から積極的に他国に提供し、それらを使ってもらうような仕組みづくりを考えるべきである。